

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(041号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年04月15日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年04月15日
Bar RyN	2004年04月15日
買い物百般	2004年04月15日
エクスカーション	2004年04月15日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

* 身辺雑記 *

「ハカランダ開花」の巻 2004年4月15日 更新

3月初めから下旬まで続いた暖かい陽気は、最後の週の豪雨で帳消しになってしまいました。4月に入ると又好天氣が戻り、このまま夏になるかと思うぐらいでしたが、第2週後半には又大荒れで、セマナ・サンタの最高潮となる8日・9日は雨で散々の休日となりました。幸い、11日の日曜日・復活祭には快晴となりましたが、空気は冷たく、3月中旬までの暖かさがウソのようです。

去年の記録を見ると4月から9月まで雨が降ったことはありませんでした。ホントかなと思える程のカラカラ天気でしたし、Nは暑い暑いと閉口していました。でも、今年ちょっと様子が違うような気がします。3月の第3週にはサンダルまで引っ張り出したのにその後は雨支度・冬支度に戻ることが多かったのです。

セマナ・サンタが終わったら、カディスへ部屋探しに行こうといていたのですが、チョッと様子見です。出先で降られるのはかなわんし、急いでもすぐに見つかるものでもないし、とグズグズしています。

我ながら気が長くなったもんだとつくづく思います。信号が変わるのを苦も無く待てるようになりました。でも、横断歩道でみていると、必ずしも年寄りが気が長いとは限りません、逆に気短になる人も多いように見えます。スペインの若い世代は、信号はないものと思っているようで、余程交通量の多いところでない限り、赤信号でも立ち止まりさえしません。こんな所では自分で運転する気にはとてもなれません。

免許証も次の更新はしないツモリです。車が無ければ生活できない、という考えと、無ければ無いでどうにかなる、又は、どうにかするしかない、と考えることはほんの紙一重の差だと思います。私達も結婚以来ずっと車はあって当たり前でしたし、娘が小さい時はそれなりに便利でした。しかし、車が無い今の生活を不便と思ったことはありません。今では歩いて一時間程度なら躊躇無く徒歩で出かけます。何時来るか分からないバスをイライラと待つより精神衛生にも足の鍛錬にも真に宜しい。



窓の外のハカランダ(ジャカランダ)は古い葉っぱを落としつつ、新芽と花芽が出てきていましたが、先週の雨の後一気に蕾が膨らんで色づいてきました。今朝(15日朝)見るとツイにその中の一つが開いていました。



まだ、去年の古い葉も残っているし、こんな風に新しい葉っぱも花も同時についている不思議な木です。このあたりにはハカランダの木は比較的多くて街路樹にも沢山見られますが、ウチの窓辺のようなのはやはり普通ではないのでしょうか。日本では桜が一年の初めでも終りでもありますが、私達にはハカランダがその代わりです。***

* B a r R y N *

「サルディナス」の巻 2004年4月15日 更新

先週の日曜日、マラガの復活祭の行列を見たあと、浜に出て昼食としました。天気は上々。日差しは強いものの、空気はややひんやりとして気持ちのいい午後です。浜には水着で又はトップレスで甲羅を干している人もいましたが、木曜から土曜日まで雨だった所為か水温も低かったのでしょうか、サスガに泳いでいる人は見当りませんでした。こんな天気のいい日は、北欧から来る人が多いベナルマデナなどでは大勢泳いでいる筈です。この日行ったこの場所はマラガ港の東側の浜で、外国人はごく少ないところですよ。私達の引越しの、カディスに次ぐ第二希望の場所でもあります。久しぶりのソトメシです。こういう上天気の日には浜に出てチリングイトに限ります。チリングイト **chiringuito** とは、本来は、ヨシズ張りのような小屋で、前浜で取れた魚介類を食べさせていたのですが、今では本格建築のものもあり、外国人向けに英・独・仏・伊など各国語のメニューを置いた店も多いのです。要するに浜に直接面した手軽な飲食店と思えばいいでしょう。私達はなるべく外国語メニューのない所それどころかメニューそのものがない、というようなスペイン人しか行かないような店に狙いをつけます。しかし、私達の町にはそんな所は殆どありません。



写真の左手の住宅群がマラゲータ **Malagueta** と呼ばれる地区で、その更に左のマラガ港に面しています。右手のほうはマラガの東に広がる地中海、遠くにシエラ・ネバダも見えます。マラゲータは半島のように海に突き出した所です。この写真は岬の先端

付近から内陸を向いて岬の東海岸を撮ったもの、後ろは当然地中海です。

マラゲータの一等地に建っている住宅からはマラガ港も地中海も一望で180度以上水平線が広がります。勿論そんな所は高くて到底手が出ませんが、それほど眺望は望めないにしても、ごく普通の市民が生活する一角もあるので、そういうところが家

探しの目標です。

次の写真は半島尖端の灯台。この向こう側はもうマラガ港です。昔はココが港の入り口だったんでしょうが、港が、大きく、且つ近代化されると共に沖へ沖へと埋め立てが進み、今ではむしろ港の中ほどの位置になってしまっています。日本でも主要港の

大部分で同じような現象が起きてますね。

灯台下の赤いパラソル・椅子・テーブルが今日のチリングートです。左のコカコーラの赤旗が立っている三角屋根が調理場とカウンター席、一番左はトイレ小屋。



この写真の左手に椰子の木が一本生えていて、その下に白い箱とそれに手をついてい
るようなオッサンが見えますね。これがこのチリングートのミソなんです。

赤いパラソルの下に座って先ずはカーニャ。そしてカウンターの中にあるガラス・ケ
ースに並んでいるタパスのネタを見に行きます。エーッと、これとそれと、と指差し
て選んだのは、ピンソ・デ・カングレホ **pinzo de cangrejo**=蟹のはさみのフライ、
ボケローネス・エン・エスカベーチェ **boquerones en escabeche**=片ロイワシのマリ
ネー、そして、ピミエントス・アサードス **pimientos asados**=焼きピミエントのマ
リネーそれぞれ1.2ユーロです。

こんなところはややこしい値付けはなし。ラ・クエンタ・ポル・ファボール=勘定！と
言われたとき、サッとテーブルをみて皿の数とコパの数を数えれば、ハイ、いくら！
とすぐ答えられるようにしてるんですね。だからタパス皿の大きさは同じでも高いも
のはチョビツとで、安いものは沢山入れてあります。

ボケローネスにはアセイツーナス(オリーブの実)を5~6粒乗っけてくれて、これは
ツキダシ代わりのサービス。タパス一皿に一切れずつパンがついています。これがタ
パスの語源になった「蓋」かも？ こんなものをつつきながら、セルベサから冷えた
白にうつってゆきます。

トレアドル・パンツとポニー・テールが良く似合う店のかわいいオネーさんが、キビ
キビ忙しく動きながら、時々、ペペー！ メディオ・ウーノ！ とか グランデ・ドー
ス！ とか叫んでいます。何を言ってるのかな？ オネーさんの視線の先を見ると、
そこにさっきの椰子の木とオッサン。そしてその横には古い小さい漁船を火床代わり
にして炭火を一杯おこして有ります。椰子の木オジサン、ペペはイワシを焼く係なん
ですね。ペペ **Pepe** はホセ **Jose** の愛称です。スペインのタローです。

オネーさんのペペー！ メディオ！ とか グランデ！ という黄色い声が飛ぶと、ペペ
は、アイヨでもなく黙々と、横に置いた発泡スチロールの箱からマイワシをつかみ出
し、太い竹串に刺し、塩をぱっぱと振っては古漁船の火床で焼いています。

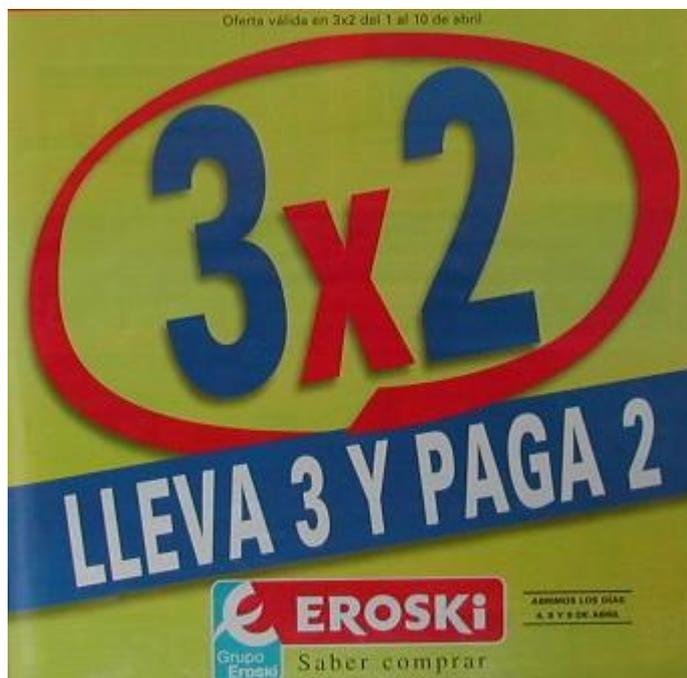
こいつをやらんテはないと、早速オネーさんに手を上げてサルディナス(マイワシ)・
ポル・ファボール。すかさず彼女の声がとびます、ペペー！ メディオ・ウーノ！



どんなに注文がたてこんでも決して急がないペペ。イワシから落ちた油がジュージュ
ーいっているのが聞えそう。向こうの浜にはトップレス。沖には沖待ちの船。
さて、そろそろ帰るか。お勘定！これが又ヤケに安いんですねー。帰る道々よく
考えると、どうやらオネーさん、イワシの皿を数えるのを忘れたらしい！！***

* 買い物百般 *

「3 x 2、2 x 1」の巻 2004年4月15日 更新



これは、掛け算の第一歩ですが、ココでは買物の第一歩です。バーゲン・セール of 惹句なんです、日本ではあまりナジミのない言い方ですね。三つ買って二つ分払う、又は二つで一つ分の値段、という意味です。3 x 2なら約33%引き、2 x 1なら半額です。30%OFFや50%OFFという言い方がないわけではありません。衣料品店や靴屋などは、むしろそういう表示が普通です。しかしスーパーでは殆どどの店でもバーゲン・セールでは3 x 2、2 x 1という言い方が当たり前です。郵便受けに突っ込んである広告ビラも店内の吊り広告も派手にそう書いてあります。LLEVA 3 (リ)エバ・トレスは三つ持って行って下さいそして PAGA 2 (パ)ガ・ドス、二つ分払って下さい、という意味です。英語では buy 1 get 2 (バイ・ワン・ゲット・トゥ)等と言うらしいです。一つ買えば二つだよ、2 x 1と同じです。二つで一つ分なら5割引と同じですが、私達にとっては必ずしもそうではありません。2 x 1より5割引が断然いいのです。安いのはいいけれど二つ貰っても困るものも多いのです。



例えば、これ。ウチでは魚三匹貰ってもしようがありません。衣料品や靴屋がこの惹句を使わない理由もそういうことなんだと思います。この売り方が歓迎されるのは生鮮品を大量に消費する家庭、または保存の利く消耗品に限ると思います。

二人だけの生活では、生鮮食品はその日に使い切る量など知れたものだし、いくら保存がきくからといって不要不急のものを大量に抱え込むのも馬鹿げています。

カメラとかテレビなんかも、たまにはこういう売り方をするケースがあります。まさかいくら安いといったって、同じテレビを二台も三台も一度に買う人はいません。

これなんかは明らかに、誰か友達など、仲間で一緒に買う事を想定した売り方なのでしょう。服がヒトと同じ、なんていうのは、女性は特に嫌う事でしょうがカメラやテレビが同じでも一向に構いませんね。その上安くなるんだから、当然、文句はないわけです。



ウチで歓迎の 3 x 2 又は 2 x 1 はこういうもの。これならなんぼ買いこんでも腐るわけじゃなし、古くなって味が落ちるモンでもないし、全く問題ありません。

左の赤の横に **Unidad: 4.20E** と書いてあってその下に赤字で **Lleve 3 por: 8.40E** とありますね。一本買えば 4.2 ユーロだけれど三本なら 8.4 ユーロという事です。



この通りビーノもこの3 x 2で売られるモノがかなり多く有りますが、その多くは、この写真のように「安モノ」が殆どです。いくら安いものが好きだといっても、旨くなくちゃ話になりません。しかも、不味いのをいっぺんに三本も買ってしまったらガックリきますね。うんと安いものなら、料理用にすればイイヤと割り切ればいいですが、常用・上限ぐらいの価格帯で買う場合は要注意です。初めて買うというものはチョット手を出す気になれません。それにしても、ココに出ているビノは安いですね。

一番安い0.74ユーロなんてのは今の為替レートでは百円以下です。

サスガに私達もこれには手が出ません。ウチの晩酌指定銘柄の一番安いのは1.98ユーロ、約260円です。結局3 x 2や2 x 1は買い手のためではなく、売り手の都合、仕入れてしまったけど売れずに滞貨してしまっているものが多いのでしょう。ウチの常用指定銘柄は3 x 2になることはありません。その事は逆に私達の「常用指定」の質の良さの証明です。残念だけどチョットいい気分でもあります。***

エクスカーション

「マラガの復活祭」の巻 2004年4月15日 更新

先週のアップ・ロードをした木曜日の夜からまた雨になり、金曜は終日雨、土曜日も夕方までぐずついでいました。セマナ・サンタの最高潮は、木曜夜から土曜日明け方迄ですから、散々のセマナ・サンタになってしまったわけです。マラガ・テレビでは木曜の行列が中止になったのは50年ぶりとか、木・金続けてというのは70何年ぶり、とかいう意味の事を言っていたようです。やはり異常気象です。

セマナ・サンタの休暇をアンダルシアの各都市で過ごそうという首都圏からの客はかなりの人数になったらしいですが、この雨では十分楽しめなかったでしょう。

丁度、日本の盆・正月の帰省ラッシュのような車の渋滞の様子が連日テレビで流れていました。セマナ・サンタ中だけで交通事故死が百人以上だった、とかいうことも言っていました。いずれも高速道路上のもので、事故の程度もハンパではなく木っ端微塵という表現がピッタリの、原型をとどめない大破の仕方で、いっそアキラメもつきやすい程の惨状がそこココで見られました。

宗教離れは、この熱心なカトリック国でもじわじわ浸透しているようで、アンダルシア各都市のセマナ・サンタの行列は横目に見て、暖かいコスタ・デル・ソルの海岸を目指した人も多かったようです。しかし、そういう人たちも今年は雨にたたられてガッカリだったでしょう。バチがあたったなどとは決して考えないでしょうけどね。

11日の日曜日はセマナ・サンタの締めくくり、復活祭です。この日は朝から快晴で空気もカラッと冴え渡っていました。去年の復活祭は4月20日で随分遅かった所為もあって、セマナ・サンタ中の天候も、もっと安定していたのだと思います。

去年の復活祭の日には近所の山の村に遠足に行って、通りかかった教会から小さな行列が出てくる所へ思いがけなく行き合わせました。その様子はその後の「エクスカーション」「プエブロ」の巻でお話しましたね。今年はマラガの復活祭にしてみました。またまた、Nの注文で仕方なく、ウシに引かれて、です。



これは行列の先頭、言わば露払いです。行列の本体は左の角を回って出てきます。この白いトンガリ頭巾、カピローテを被った先頭からしんがりまで実に丸2時間、ゆっくり、ユックリ、或るところは賑やかに、又は別のところはシメやかに、各教会・教区ごとに色とりどりの頭巾を被って行列は進みます。この写真の場所がメイン・ストリート、アラメダ・プリンシパルの取っ付きです。

セマナ・サンタ初日の先週日曜から復活祭前々日の金曜までに、市内アチコチに散らばる多くの教会から、進行予定表に出ているものだけで40の行列。パソ(お神輿)の数は行列一つに最低一つ、それ以外の前座的なものや子供用のものなどを入れると全部で何基になるのか知りません。とにかく、期間中は昼夜を問わず旧市街のいたるところ行列だらけです。しかし、今年は、一番の盛り上がりになる筈の木・金が雨で、文字通り水を差されてしまいました。復活祭のこの日は行列はとてつもなく長いものが一つだけ、パソは2基、旧市街の同じ教会から出るものだけです。予定表では去年も同じでしたから、この日の出し物はこの教会の分担と決まっているのでしょう。この日、私達が現場についたのは11時半ちょっと過ぎ。行列がメイン・ストリートに入ってくるのは正午の予定でしたが、まだヒソリしていました。けれども、この間の例もあるし、行列がつく頃にはどうせ込んでくるのだろうと思っていました。



上は賑やかな楽隊。この日のものは一際大勢の集団で、シッポのほうは見えなくらい。全部は数え切れませんでした。多分百人は越えると思います。こうなると、先頭としんがりでは音を合わせるのも大変だろうと思います。この写真は一曲終わって一息入れているところで、やや乱雑に見えますが、次の曲を始める時は隊列もシャンと整ってから始めます。面白いのは行列のいたるところに差し入れがついて歩いていて、こうして一服している時に飲み物や軽食を配っています。全く個人単位でやっている事らしく、あたる奴にはしょっちゅうあたるし、全く誰にももらえないかわいそうな奴もいます。下はジャリンコ集団。手前、ハゲ頭のかげの白装束の二人なんかはほんのヨチヨチで、右端の母親らしき女性が心配そうについて歩いています。





イヨイヨ、本体出現。セマナ・サンタ中は、十字架を担がされたり、切られの与三になったり散々だったイエス様も、復活祭のこの日は、ハレバレすっきり。ドコにも傷もなく、血を流してもおらず、まさに復活です。

楽隊やトンガリ帽の集団が通過する間は、タダ楽しんでいたらしい人たちも、このパソが近づくとご覧の通り、誰が掛け声をかけるでもなく総員起立、夫々に十字を切っていました。たまたまココに写っているのは熟年グループですが、若い人たちも例外なくそうしているのが私達のような無信心モノにはむしろ不思議に思えました。

フットボールの試合を見ている、各選手が入場・退場の時には、或る選手は派手に、或る選手は控えめにやはり十字を切っています。仏教徒でも自然に合掌をできる人もいのですが、Rには引っかかるところが有り、素直にそうする気持にはなれません。信仰心というものには心に何の抵抗も無く、自然に湧き出てこそ本物なのでしょう。この国の若い世代全員が、本気で処女懐胎やキリストの復活を信じているとは思えませんが、少なくとも平均的日本人よりは信心深いと言えるでしょう。



二番手はマリア様。この頃にはもう、この広いアラメダ・プリンシパルもヒトで埋め尽くされてきました。初めはすいているので、木・金の雨で遠くから来た人は懲りてもう帰ってしまったのかと思っていましたが、それはとんでもない間違いだということが解ってきました。こうなるとカメラ・マンも楽ではありません。

前のキリスト像のパソもそうでしたが、今日は担ぎ手が全員黒背広、黒ネクタイで統一です。頭に頭巾を被ったり、顔に覆面を被ったりもしていません勿論、何か宗教的な意味があつてのことでしょう。金曜までは担ぎ手も大なり小なり法衣を着ていましたし、頭又は顔も含めた頭部全体に何か被っていました。パソによっては周りに垂れ幕をたらし、担ぎ手は全員その中に入って外からは見えない、というものもありました。この日は普通のダーク・スーツの形です。トンガリ頭巾の長い蠟燭もなし。

もう一つ、次の写真のような紋章ごとにその集団のトンガリ頭巾の色も変わっていてそういうグループが数十人かたまってやってきます。これは多分アチコチの教区の一団なのだと思います。この紋章はペンドン **pendón** というのだそうです。

このカピローテというトンガリ頭巾は中にボール紙で作ったトンガリ帽が入っているのです。この間テレビでその作り方を解説していました。法衣を含め、てこれらの衣装を作ることを専業としている人もいます。



この行列に幾つの教会が参加しているのか知りませんが、紋章の数は少なくとも40以上あったと思います。全部を写真に収めたかどうか自信がありませんが、いずれ、そのうちご紹介しましょう。インフォメーションで貰ったパンフレットの地図によると、旧市街の中心地、約1.5キロメートル四方に21の教会が有ります。日本なら、さしずめ寺町とか門前町ですね。

旧市街の中心地だけでこれですから、新市街を含めると相当な数になっても当たり前です。金曜までの6日間は、旧市街の中でも特に歴史の古い教会が保存しているパソを各教会から一つずつ、毎日合計6基か7基出していたのですが、そうすると16時とか17時に始めても最後のパソが元の教会に戻るのには明け方4時5時になってしまいます。夫々のパソが必ず、メインストリートのアラメダ・プリンシパルとマラガ銀座・マルケス・デ・ラリオス街を通らなければならないので、時間差をつけなければならないのです。復活祭ではパソを出す担当教会は一つだけ、そのかわり市内の全教会が紋章だけを行列に参加させるのだと思います。だから、この日の行列は一つだけだけれどやたらに長くなって、先頭がある場所を通過して、同じ場所をしんがりを通りきるまで2時間も掛かるのです。出てきた教会に帰る迄5時間以上掛かります。



キリスト像がハレバレすっきりしていたように、この日はマリア様にも大粒の涙・ラグリマ *lágrima* はありません。これまで連日、嘆き、悲しみの表情ばかりでしたが
今日の像は穏やかな優しい顔になっています。

普通どの教会でもマリア像はこういう優しい顔が当たり前ですね。テレビでみているとセマナ・サンタのパソのマリア像はどの町のどの教会のでも、殆どが悲しい苦痛の表情でした。キリストの受難劇を再現する行事ですからそうなるのは仕方のないことですが、最後の復活祭でキリスト像もマリア像も穏やかな表情を取り戻し、行列を見送る人も安らぎを得るのでしょう。

行列がメインストリートからマラガ銀座に入る頃になると、見物の人垣もくずれて、行列の後ろに流れて行きます。行列が通過した後、銀座通りではビーノの振舞い酒があるらしいんです。キリスト教にもやはり精進おとしはあるんですね。

普通なら振舞い酒をことわるテはありませんが、なにせ、この人数、ビーノの樽に行き着くのを待つられません。デ、手っ取り近くのバルで自前の精進おとし。***
